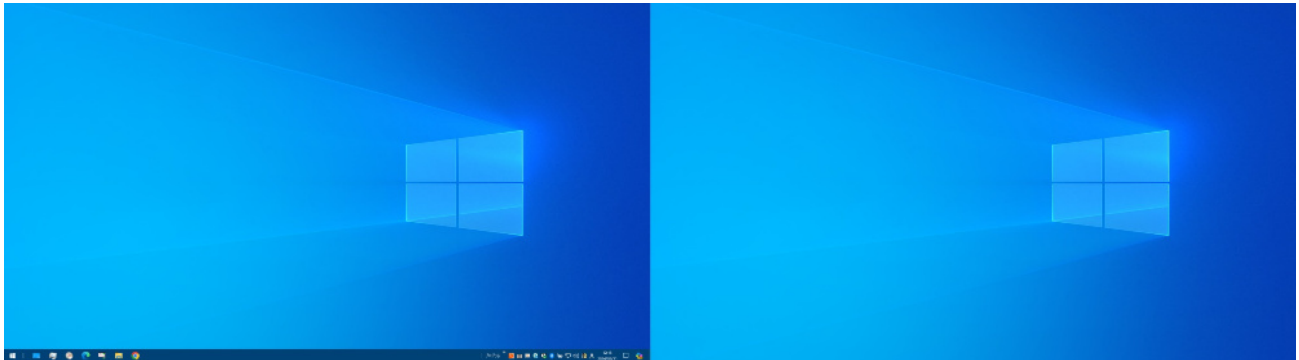


次のような2画面の x軸 の状態としてアプリを作ってます。

X=-1920

X=0

X=1920



左画面の右端にフォーム右端を、右画面の左端にフォーム左端を寄せたいときに設定して使います。

/FormMainFittingSet を指定して起動する前に次の点を確認してください。

まずは『 ウィンドウの下に影を表示する 』が 有効 になっているかどうかです。

無効 なら矢印の先まで進んでください。（既定値 が 無効 になってます。）



影 : 有効



影 : 無効

有効になっているのなら次のパラメータも加えて起動してください。

```
/FormShadow=True
```

レジストリー や API を使えば取得できるそうですが、私にはそれだけの技量がありません。

次に 影の幅(ドット数) ですが、通常の 7 ドットでないときにパラメータに加えてください。

```
/ShadowDot=n
```

 影の幅(ドット数) **n** = 0 以上の数字。
既定値として **7** が保存されています。

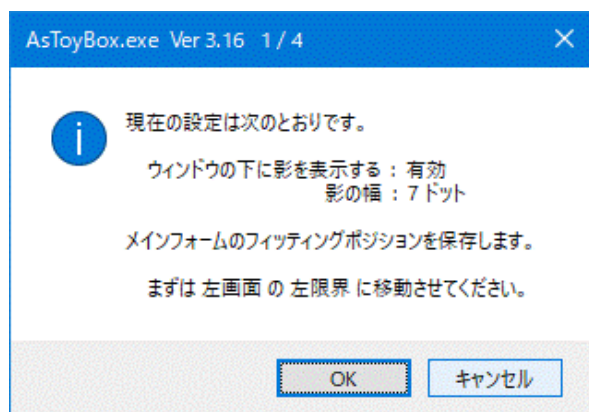
影付き、影の幅 **10** ドットのときは次のパラメータになります。（大文字・小文字は同一視してます。）

```
/FormMainFittingSet /FormShadow=True /ShadowDot=10
```

では /FormMainFittingSet と必要なパラメータを加えて起動してください。

設定は 4回あります。途中で失敗すると最初からやり直しになります。

最初はフォームを左画面の右端に移動させるのですが、次ページを見てから移動を始めてください。



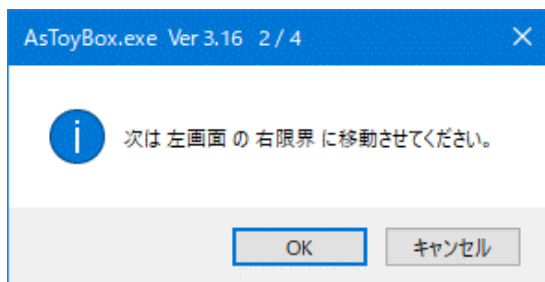
ドライブ表示がされるフォーム幅が広い場合でも
フィッティングをするときは狭くなります。

まずは 左画面 の 左限界 に移動させます。

この幅以下のときにはフォームを 左画面 の 右端 に寄せる位置です。

これ以下なら 中央 に寄せます。



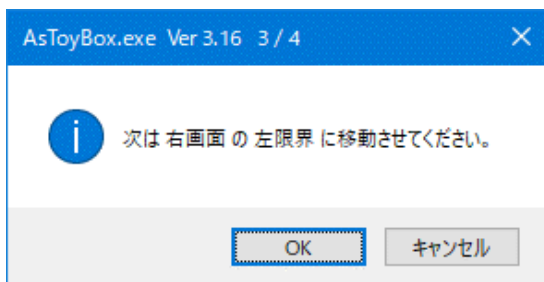


次は 左画面 の 右限界 に移動させます。

この幅以下のときにはフォームを 左画面 の 右端 に寄せる位置です。

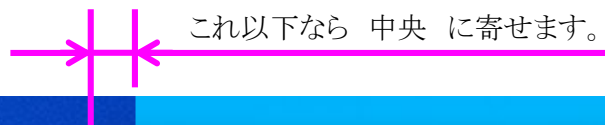
これ以下なら 中央 に寄せます。

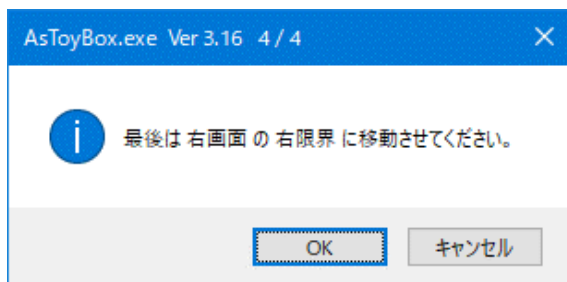




次は 右画面 の 左限界 に移動させます。

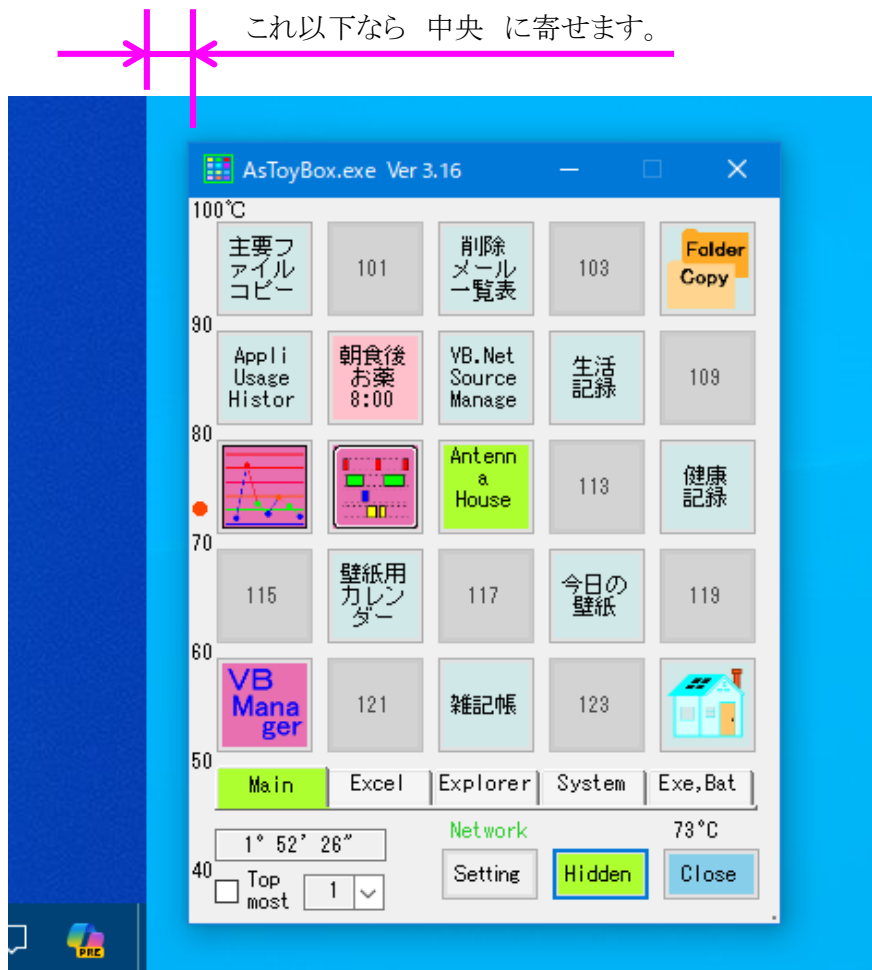
この幅以下のときにはフォームを 右画面 の 左端 に寄せる位置です。

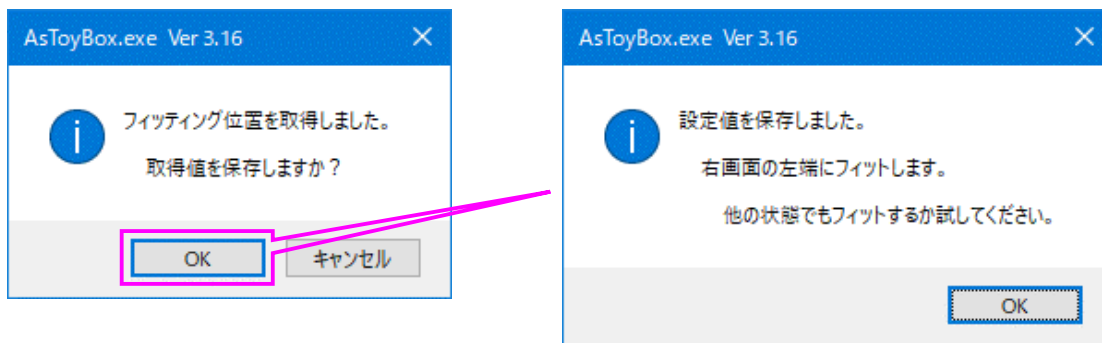




最後は 右画面 の 右限界 に移動させます。

この幅以下のときにはフォームを 右画面 の 左端 に寄せる位置です。





以上で設定は終わりです。

OK をクリックしたら

取得した設定値が保存され

フィッティング が有効になります。(/FormMainFitting=True が実行されます。)

もう一度 OK をクリックしたら

フォームが右画面の左端にフィットしたら正常に機能しています。

他の位置でもフィットするか試してください。

動作を確認できたら起動パラメータは忘れず 削除 してください。

キャンセル をクリックしたら

設定値には一切の変更はされていません。

以前の設定値が保存されています。

フィッティング に関する起動パラメータ について。

/FormMainFittingSet	フォームメイン の フィッティングポジションの記録を開始します。
または /FFS	

以下のパラメータは保存されますので、毎回起動パラメータを付けなくてもかまいません。

/FormMainFitting=True	フィッティング動作をします。
または /FF=True	

/FormMainFitting=False	フィッティング動作はしません。
または /FF=False	

/FormShadow=True	ウィンドウの下に影を表示する が 有効になっている。
------------------	----------------------------

/FormShadow=False	ウィンドウの下に影を表示する が 無効になっている。
-------------------	----------------------------

/ShadowDot= n	影の幅(ドット数) n = 0 以上の数字。 既定値として 7 が保存されてます。
----------------------	--

―― 以上 ――